

ノカテの「SUISEN Bouquet」 が全国に！ チームも法人化へ。

越前海岸の水仙産地で新たな生業づくりに挑戦するプロジェクトチーム、ノカテ。2021年度はオリジナルプロダクトである「SUISEN Bouquet」のEC販売がスタートし、東京・北陸での展示販売会も行うなど、精力的な活動が展開されました。



ノカテが活動の拠点とする越前海岸は、大正時代から日本水仙の栽培が盛んな地域として知られています。令和3年度には水仙畑の風景が国の重要文化的景観に選定されるなど、日本の風土や生活を理解するために欠かせない重要な景観としても正式に認められました。

PROJECT



XSESSIONS

2021 PROJECT
ARCHIVE

2020 PROJECT
ARCHIVE

2019 PROJECT
ARCHIVE

2018 PROJECT
ARCHIVE

2017 PROJECT
ARCHIVES

2016 PROJECT
ARCHIVES

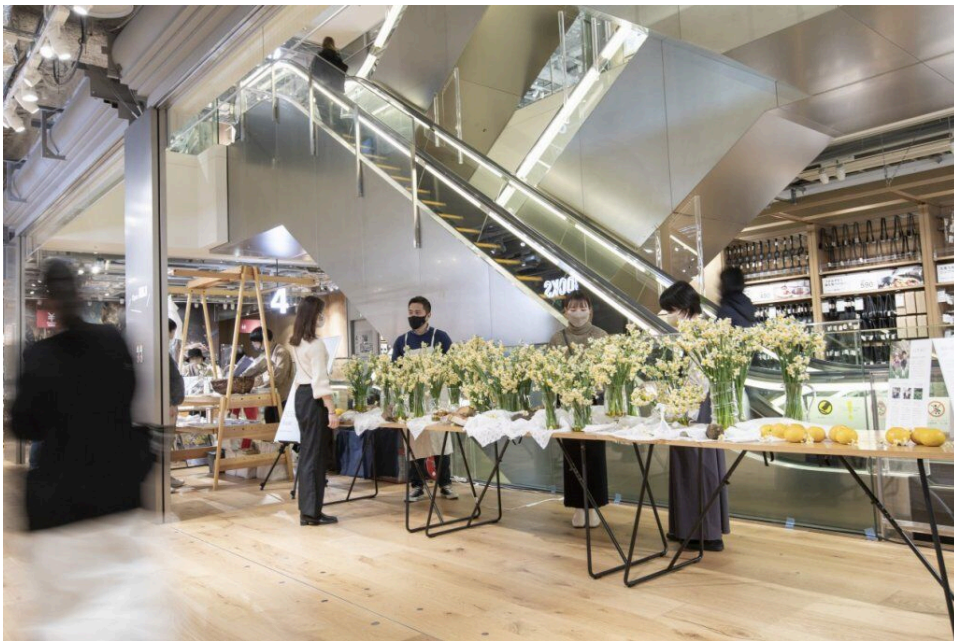
CONTACT



一方で、水仙農家の高齢化や獣害の深刻化、担い手不足といった現状もあり、水仙畑の景観をいかに次代へとつないでいくかが産地の課題でもありました。



そんな中、ノカテが取り組んだのは、越前海岸に咲く日本水仙を「SUISEN Bouquet」としてEC販売で全国へ届けるというプロジェクト。従来の出荷規格にとらわれず、日本水仙の魅力を身近に感じてもらうと新たな水仙の楽しみ方を提案しています。※2021-2022シーズンの販売は終了。



また、2022年1月には無印良品の銀座店で初のPOP UP SHOPを開催。

約4,000本の日本水仙を越前海岸から東京へ運び、インスタレーションやワークショップ、ブーケ販売などを通してその魅力を発信しました。



▲その場で持ち帰れるブーケとして日本水仙を販売。



▲越前海岸のガラス工房でつくられたフラワーベースをはじめ、XSTUDIO参加企業である荒川レース工業のレースなど産地の素材を使いながらインスタレーションを展開。



▲手ぬぐいやステッカーなどのオリジナルグッズも製作し、販売を行いました。



さらに、2022年2月にはお隣石川県の無印良品・の野々市明倫通り店でもPOP UP SHOPを実施。



▲同じ北陸に暮らすみなさんに、日本水仙の魅力を届けました。

初めての販売シーズンを無事に終えたノカテ。

今後はチームの法人化に伴い、産地の拠点整備や来シーズンの販売に向けた体制強化を図っていくほか、産地に関わる人を増やしていくためのインターン事業などにも取り組んでいきたいと意気込みます。

2019年度のXSCHOOLからスタートし、いよいよ活動が本格化したノカテの今後にもぜひご期待ください。



◀◀ PREV

Related article 関連記事



PROJECT

「トンカンテラス」の開設準備が進行中！

2019年度のXSCHOOLから生まれた、“ものづくり”をテーマにした地域の交流拠点「トンカンテラス」。当時の中心メンバーで自らの実家倉庫を改修するプラン…

MORE >

CONTACT

福祉身近に「新着想

プロジェクトがオンライン
の本年度発表会Ⅵ

Xスクール発表会 経験、関心から事業案

県内外の若者らと福井の
パートナー企業が新事業創
出を目指す福井市の実践講
座「Xスクール」の本年度
発表会が6日、オンライン
で開かれた。受講生4組が
医療、福祉をより身近なも
のにするため、自分たちの
経験や関心から生まれたア
プロジェクト案を披露した。
都市部から若い人材を呼
び込み、伝統的に人の流れ
をつくる市の「未来につな
ぐ・ふくい魅える化プロジ
ェクト」の一環。



を模し、機械、摘み、古いプロ、や行、勤務、コ、取り、型、るブ、た遊、し、った、意識、ら、発、な、昨、年、セ、ケ、日、華、10、人、じ、な、1、マ、5

PROJECT

【2020年度 make.f ARCHIVES】プロジェクト編

こちらでは本年度のmake.fプロジェクトや活動継続中のプロジェクトメンバーについて福井新聞で記事化されたものを紹介します。

2019XSCHOOLから生まれた「喜贈文…

MORE >



改修設計担当が縁
温泉施設に座布団
勝山、札幌の業者贈る
昨年末にリニューアルオ
ープンした勝山市の勝山温
泉センター「水芭蕉」に、
その改修設計を手掛けた札
幌市の事業者がこのほど、
「三木佐藤アーキ」。同社
の依頼で品物を製作した
明林繊維（福井市）の村上
貴宣社長が届けた。受け取
った水芭蕉の樹家慎一
配人は非常にありがたい。
ロビーの休憩スペースな
どで活用する」と話した。
座布団は12枚、クッショ
ンは20個あり、村上社長は
「生地は製造から縫製まで
を県内で行った」と説明す
る。生地はいずれもポリエ
ステル製。水芭蕉柄え付け
のソファと同じ素材で恐竜
の足跡柄が入っている。色
もソファに合わせて、緑と白
の2色とした。
三木佐藤アーキの佐藤圭
代表は「統一されたデザイ
ンの内装にしたいと思っ
ていたので寄贈した。この
クッションなどをほしい
という声が出て、市販につ
ながるといいと思う」と期
待した。
(桂知之)

PROJECT

【2020年度 make.f ARCHIVES】人、企業、まち編

これまでにmake.fプロジェクト参加したメンバー・企業たちは多方面で活躍を続けています。このうち福井県内でのアクションについて、2020年度に福井新聞で記事化されたも…

MORE >



PROJECT

みんなの拠点「XSTAND」が完成！

2020年11月末、福井駅前にmake.f活動の拠点となる「XSTAND」がついに完成しました！ 以前よりmake.fの運営を担ってきた福井新聞社が、地域に根ざした創…

MORE >

閉じる

CONTACT

f

事業名 福井とつながる対流拡大事業 主宰 福井市
協力

国立大学法人 福井大学 産学官連携本部、公立大学法人 福井県立大学 地域連携本部、株
式会社福井銀行、株式会社福井新聞社

運営 株式会社福井新聞社、株式会社デザインスタジオ・ピネン

© 2025 未来につなぐ ふくい魅える化プロジェクト